

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田禎一郎

2020年2月2日（日）

主 題：「普通の人でよいのです」

—エリヤの祈り—

聖 書：ヤコブの手紙 5章17, 18節

5:17 エリヤは私たちと同じ人間でしたが、雨が降らないように熱心に祈ると、三年六か月の間、雨は地に降りませんでした。

5:18 それから彼は再び祈りました。すると、天は雨を降らせ、地はその実を実らせました。

はじめに

- 皆さんは、「水戸黄門」をご存じでしょうか。
私の年代の日本人であります、「水戸黄門」は大変馴染みの深いものです。
黄門様が「助さん」「格さん」を連れて旅をし、そこで出会う世の不正事件を水戸藩主徳川光圀公が成敗する出来事は、実に圧巻ですね。
- 今の時代、悪人が要領よく生き延びている姿を知ると、黄門様のような方が現れて、悪を成敗する光景を見るならば何か胸がスカッとするものです。
とくに、助さん、格さんが印籠を悪人に見せるあたり、実にスカッとしますね。
- 時代劇の「水戸黄門」は、長年続いている映画であり、そしてTV番組です。
それは、日本人には実に分かり易いものです。(実在の人物かどうかは別としても)
- ところで、ヤコブは同胞ユダヤ人クリスチャンに対し、書簡の中でここまで馴染み深い人物を取り上げてきました。それは旧約聖書に出てくるアブラハム(2:21-23)、ラハブ(2:25)、ヨブ(5:11)です。これらの3人の人々は、ユダヤ人にとっては実に馴染み深い人物です。彼らは小さい時から、これら先人のストーリーを、それこそ祖父母から聞かされていたことです。
- ヤコブはさらに4人目の人物として、エリヤを挙げました。エリヤもユダヤ人社会で有名な人物でしたから、皆が知っていました。そのエリヤについて、ヤコブが一番最初に言ったことは、「エリヤは私たちと同じ人間である」ということでした。
- 私たちと同じ人間、それは本当に励まされます。彼が熱心に祈ると、3年6ヶ月の間、雨が地に降ることはありませんでした。そして、再び祈ると雨が降り、実を实らせたのでした。皆さん、ヤコブはその偉大なエリヤと私たちを同格において、「エリヤは私たちと同じ人間である」と言いました。
- 今の時代は、多くの人が普通であることが難しい時代です。何かみんなが特別なものになろうとします。突出した存在でなければ、認められないからです。普通であることが、何かいけないことであるかのようです。
- しかしイエスの兄弟であったヤコブは、「エリヤは私たちと同じ人間である」と言いまし

た。そしてエリヤを凄い人だ、偉い人だ、特別な人だとは、言いませんでした。

- いかがでしょうか。あなたは今、自分には何の「とりえ」もないと言われるかも知れません。いいえ、「普通の人でよいのです。」なぜ、普通の人でよいのでしょうか。ここに神にある人の幸があります。今日、私は次の2点から学びたいと思います。

大切なポイント

1. 私たちと同じ人間です

- 私たちと同じ人間とは、どうことでしょうか。

1) 弱さを持つ存在

- まず、人間はみな弱さを持っている存在である、ということです。
エリヤは雨が降らないように祈ると、3年半の間、雨は降りませんでした。また祈ると、雨が降ったというのです。いわば、祈りによって奇跡的なことをもたらした人物です。
- それで私たちは、エリヤは特別な人で、偉大な人であると思いたくなります。
ある意味で、偉大な人物であることには違いありません。しかし、ヤコブはそう受け止めることはしませんでした。まず彼は「**エリヤは私たちと同じ人間である**」と言いました。
- では、エリヤはどんな人物であったのでしょうか。
先ず、エリヤは天地の造り主である神を礼拝した人でした。そして天地創造の神を礼拝しない、偶像の神々を礼拝する異教の預言者たちを相手に、すばらしい勝利を得た人でした。神が彼を祝福されからでした。
- しかし、彼がイゼベルという王女に脅かされた時、彼はまったく考えられないほど怯えてしまいました。それで彼は逃げ出し、次のように言いました。

1列王記19章

19:4 自分は荒野に、一日の道のりを入れて行った。彼は、エニシダの木の陰に座り、自分の死を願って言った。「【主】よ、もう十分です。私のいのちを取ってください。私は父祖たちにまさっていませんから。」

- 私たちも、物事や奉仕がうまくいっている時には、教会生活を続けることができるでしょう。周りの人からも「いいですね。立派な奉仕ですね。すばらしい。」と言われることもあるでしょう。
- しかし、何かの拍子に失敗してしまうと、人からも「あなたはダメだ」と言われると、もう教会なんか嫌だ。行きたくないと、思ってしまうような者ではないでしょうか。エリヤもそうでした。
- エリヤはなぜ、こんな状態になってしまったのでしょうか。
まず信仰の先人を振り返ってみましょう。信仰の父と呼ばれるアブラハム、彼はエジプトに下りました。そこで自分の妻のことで、パロ王に嘘を言いました。自分の命が脅かされる事態になった時、彼は自分の妻を妹と言いました。それは王の前で、正直に答えないことで王を裏切ることでした。
- 神から十戒を授かったモーセは、どうであったのでしょうか。柔和な人物であったと言わ

れます。しかし、彼は人を殺してしまった人でした。彼はイスラエルの民を、カナンに導く資格を失ってしまいました。

- 皆さん。エリヤは偉大な人物で、人間的弱さを超越しているものと考えられます。しかし、彼も王女イゼベルに脅かされ、覚えてしまいました。
- このように聖書を読んでいますと、多くの聖徒が、なぜあんなことをしてしまったのだろうと思うことがあります。はい、そうです。みな弱さを持つ存在であるのです。
- 弱さは罪ではありません。しかし気をつけないと、罪の入り口になります。そこで肝心なことは、自分の弱さを神の前に置くことです。聖霊の光に照らされて、自分は教えられるものです。そして、少しでも乗り越えられるよう祈る必要があります。「自分は弱いんだ、弱いんだ」というだけでは、勝利を得ることはできません。
- ですから、弱さがあることが問題ではありません。問題は、自分でその弱さを理解しなかったり、失敗の言い逃れ（言い訳）にしたりすることが問題なのです。エリヤも失敗しました。弱さを持っているという意味で、エリヤも同じでした。しかし、彼は違っていました。弱さを神の前に置いたのです。（ここが違うのです）

2) 力に限界がある存在

- 私たちは、自分の持っている力に限りがあります。パウロとバルナバは偉大な器でした。ある時、次のような出来事があったと聖書は記録しています。

使徒の働き 14章

14:8 さてリステラで、足の不自由な人が座っていた。彼は生まれつき足が動かず、これまで一度も歩いたことがなかった。

14:9 彼はパウロの話すことに耳を傾けていた。パウロは彼をじっと見つめ、癒やされるにふさわしい信仰があるのを見て、

14:10 大声で「自分の足で、まっすぐに立ちなさい」と言った。すると彼は飛び上がり、歩き出した。

14:11 群衆はパウロが行ったことを見て、声を張り上げ、リカオニア語で「神々が人間の姿をとって、私たちのところにお下りになった」と言った。

14:12 そして、バルナバをゼウスと呼び、パウロがおもに話す人だったことから、パウロをヘルメスと呼んだ。

14:13 すると、町の入り口にあるゼウス神殿の祭司が、雄牛数頭と花輪を門のところに持って来て、群衆と一緒にいけにえを献げようとした。

14:14 これを聞いた使徒たち、バルナバとパウロは、衣を裂いて群衆の中に飛び込んで行き、叫んだ。

14:15 「皆さん、どうしてこんなことをするのですか。私たちもあなたがたと同じ人間です。そして、あなたがたがこのような空しいことから離れて、天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造られた生ける神に立ち返るように、福音を宣べ伝えているのです

- パウロとバルナバは驚くべき奇跡を行いました。それは彼らに力があつたからではありませんでした。だから「私たちもあなたがたと同じ人間です」と言いました。

3) 神を必要とする存在

- 3番目は、神を必要とする存在であることです。弱さがあり、その力に限界があるからこそ、先人たちも私たちも神を必要とする存在なのです。ですから、次のような祈りを必要とするのです。それが第2のポイントです。

2. エリヤは祈りの人でした

1) 祈りのスピリット

- ヤコブは「**エリヤは私たちと同じ人間です**」と述べた後、次に出てくるのがエリヤの祈りの話しです。ここで、ヤコブの言葉を読んでみましょう。

5:17 エリヤは私たちと同じ人間でしたが、雨が降らないように熱心に祈ると、三年六か月の間、雨は地に降りませんでした。

5:18 それから彼は再び祈りました。すると、天は雨を降らせ、地はその実を実らせました。

- エリヤが祈りを捧げた時の様子が、1列王記18章42節に書かれています。当時の祈りは一般的に、立って両手を上げて祈ったようでした。ところがこのように記録されています。

18:42 「**エリヤはカルメル山の頂上に登り、地にひざまずいて自分の顔をひざの間にうずめた。**」

- 私たちは祈る時、どのような姿勢で祈りを捧げているのでしょうか。エリヤの姿勢はなんと謙虚で、自分を小さくしました。「**自分の顔をひざの間にうずめた。**」とあります。
- 「私はエリヤだ」という態度ではなく、自分の顔をうずめてしまいました。それは神の前には、自分は顔をもたない者です、と言っているように、自分の存在を全く失った人のようです。
- 私たちはお互いに見えるところで、評価し合います。しかし、お互いの目に留まらないところで、どういう姿勢で神の前に祈る時間を持っているかが大切なのです。神の前で、自分が全く小さい存在であることを認めながら祈る姿勢こそ、神が一番喜ばれる姿ではないでしょうか。
- エリヤは「私たちと同じ人間」でした。その彼が評価をされるとするならば、彼は祈りの人であったということではないでしょうか。神が彼の祈りを聞かれたのは、彼が偉大であったからではありませんでした。神が彼の祈りを聞かれた理由はただ一つ、彼が祈ったからでした。熱心に祈ったからでした。
- 私たちも祈れば、神に聞いていただくことができます。重要なことは、人の偉大さではなく、祈りの力にあります。祈りの力とは、神の力です。ヤコブはその点を言いたいために、真っ先に「**エリヤは私たちと同じ人間です**」と言ったと思います。
- この箇所をドイツ語訳聖書で読むと、教えられました。

Elia war ein Mensch von gleichen Gemuetsbewegungen (Empfindungen)

wie wir.

「エリヤは私たちと同じような感情（複数形）をもつ人間でした。」（私訳）

2) 祈りなさい

- ここでヤコブが教えようとした大切な点は、イエスが教えたように「祈りなさい」であると思います。

私たちの人生には、いろいろな困難があります。神は私たちに祈ることを教えています。イエスは愛弟子たちに「主の祈り」を教えられた前、なんと言われたことでしょうか。

マタイの福音書

- 6:6 あなたが祈るときは、家の奥の自分の部屋に入りなさい。そして戸を閉めて、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたところで見られるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。
- イエスは、ここで密室の祈りを強調されました。その背後には、当時の宗教人たちが行っていた祈り（つまり会堂や路上で人に見せる祈り）ではなく、神との交わりの中での個人的な祈りを教えられました。
- 私たちも個人的に祈禱課題があれば、そのことのために、天父神に祈りましょう。教会のさまざまな祈禱課題についても、天父神に祈りましょう。また私たちの住む社会のためにも、天父神に祈りましょう。ご存じのように、私たちの国でも本当に悲しい、恐ろしい出来事が次から次へと起きています。
- 祈ることは、神を信じる者にしかできないことです。天と地を造られた神と、私たちは祈りを通し、神の栄光を仰ぐことができるのです。それは神を信じる聖徒の特権です。みことばは、

「たゆみなく祈りなさい。感謝をもって祈りつつ、目を覚ましていなさい。」

（コロサイ 4:2）と勧めています。

- なぜ、ヤコブはエリヤを例に上げて、同胞ユダヤ人に祈りを教えたのでしょうか。それは、祈りには人を変え、社会を変え、国を変える力があるからです。たとえ人間的に絶望的状态にあっても、希望を捨ててはいけません。創造神に不可能はないからです。

『例 話』

- 私には、忘れられない思い出となるエピソードがあります。しばらく前のことですが、ある方が臨終を迎えました。医学的には快復が望めない状態で、ホスピス病棟に入院しておられました。本人は聖書の神を受け入れ、信じてはいませんでした。
- しかしクリスチャンである家族の方々は、お父さんがイエス・キリストを信じることができるようお祈りを続けていました。召される直前でしたが、意識はもうろうとなり、会話はできない状態となりました。
- その時、私は彼を見舞いに訪ねました。どういうわけか分かりませんが、病室には家族は不在で私だけでした。私は聖書のみことば（詩篇 23 篇）を開き、耳もとでゆっくりと読み始めました。それから、「お祈りしましょう」と言い、私は彼の手を握りゆっくりと祈り始めました。

- ・すると不思議なことが起こりました。会話はまったくできなかつた彼が、私の聖書のみことばの1節づつに、同意するかのように、私の手を軽く握り返してきました。私は瞬間的に、これは彼の応答であると理解しました。
- ・皆さん。彼はその後10数分して召されました。私が彼の最後にいた、ただ一人の人でした。クリスチャンの家族が、お父さんの救いを背後で祈り続けていましたが、召される直前に応答してくださいました。そして、キリスト教葬儀で彼を見送ることができました。このことは、死の直前まで、私たちは祈りを諦めてはいけないということ学びました。
- ・祈りは、神を信じるものに与えられた特権です。そして祈りは、神に届きます。いかがでしょうか。私たちの周りには、神に介入していただき、心が新しく作り変えられる必要がある方々がいるのではないのでしょうか。忍耐、愛、信頼を持って神に祈ろうではありませんか。
- ・5:17 エリヤは私たちと同じ人間でしたが、雨が降らないように熱心に祈ると、三年六か月の間、雨は地に降りませんでした。
- 5:18 それから彼は再び祈りました。すると、天は雨を降らせ、地はその実を実らせました。

ま と め

主 題：「普通の人でよいのです」

—エリヤの祈り—

- ・今日、私たちは神から励ましをいただきました。私たちは、エリヤの祈りを通して、「普通の人でよいのです」と聞きました。ごく普通の人で、大いなる神の祝福を受けた人の秘訣は、いったいどこにあったのでしょうか。
⇒エリヤは「祈りの人」でした
- ・天と地をお造りくださった神を信頼し、私たちもエリヤのように「祈りの人」にさせていただこうではありませんか。それにはエリヤのように、たとえ人間的弱さを持っていたとしても、そのまま神の前に出ることです。それはエリヤの祈りの姿勢でした。
- ・1列王記
18:42 「エリヤはカルメル山の頂上に登り、地にひざまずいて自分の顔をひざの間になぞめた。」

* God bless you !